

株主の皆様とNTTを結ぶ

NTT is...

2010 秋

この絵には漢字1文字が隠れています。
答えは14ページにあります。





代表取締役副社長
かな さわ かおる
金澤 薫

金澤薫副社長にNTTグループのCSRの取り組みについて聞きました。

Q CSRの基本的な考え方について教えてください。

A NTTグループは、各社が推進してきたCSRをより積極的な活動にするための基本方針として、2006年6月、「NTTグループCSR憲章」を制定しました。「NTTグループCSR憲章」は、グループのCSRのあり方を表現した「CSRメッセージ」と、具体的な重点取り組み項目を示した4つの「CSRテーマ」から構成されています。この「NTTグループCSR憲章」にもとづき、本業を通じて様々な社会的課題、たとえば少子高齢化や医療・教育問題などの解決に、ICTの利活用によって貢献していくこと、また、国際標準的な規範やルールに対応していくことで、株主の皆様をはじめとするステークホルダーの方々の期待にこたえていくことが、企業価値の向上と企業の持続的発展につながるものと考えています。NTTグループは、CSR活動を継続的に行うことにより、人と社会と地球がつながる安心・安全で豊かな社会の実現に貢献していきます。

NTTグループCSR憲章

CSRメッセージ

私たちNTTグループは、情報通信産業の責任ある担い手として、最高のサービスと信頼を提供し、“コミュニケーション”を通じて、人と社会と地球がつながる安心・安全で豊かな社会の実現に貢献します。

CSRテーマ

●人と社会のコミュニケーション

- ・私たちは、より豊かで便利なコミュニケーション環境を実現するとともに、情報通信技術を活用し、人口減少・高齢化社会における様々な課題解決に貢献します。

●人と地球のコミュニケーション

- ・私たちは、自らの環境負荷を低減し、地球にやさしいコミュニケーション環境を構築するとともに、情報通信サービスの提供を通じて社会全体の環境負荷低減に取り組みます。

●安心・安全なコミュニケーション

- ・私たちは、情報セキュリティの確保や通信の利用に関する社会的な課題に真摯に取り組み、安心・安全な利用環境と新しいコミュニケーション文化の創造・発展に尽くします。
- ・私たちは、社会を支え生活を守る重要なインフラとして、災害時にも強い情報通信サービスの提供に努め、いつでも、どこでも、だれとでもつながる安心と信頼を提供します。

●チームNTTのコミュニケーション

- ・私たちは、“チームNTT”の一員として、責任と誇りを胸に、高い倫理観を持って事業に取り組み、個の成長に努めるとともに豊かな地域社会づくりを推進し、社会的使命を果たして行きます。

※ チームNTTとは、派遣社員・契約社員も含めたNTTグループで働く社員のみならず、パートナーの皆様、NTTグループのCSRIに賛同する退職した方々です。

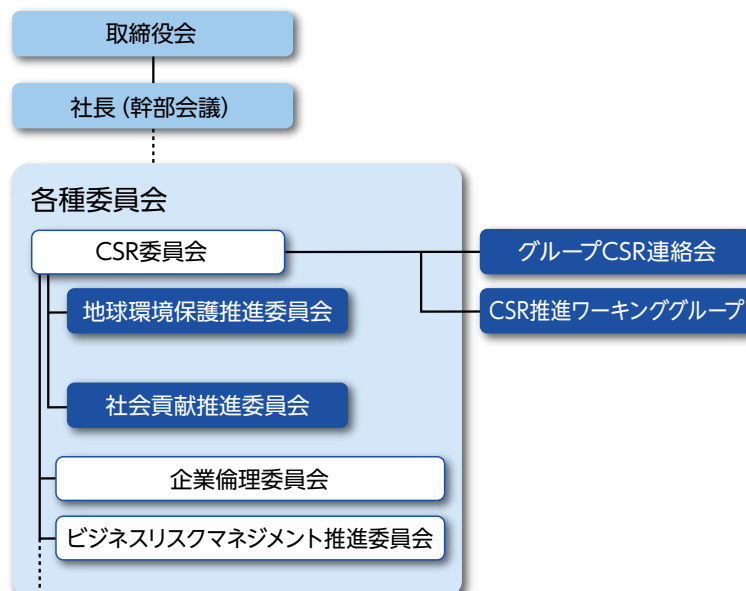
Q グループとしてのCSRマネジメントについてはどのようにお考えですか？

A NTTは、CSR活動に限らず、「グループ」という考え方をとても重視しています。その背景には、情報通信の世界における技術革新による「放送」と「通信」、「固定」と「移動」の融合・連携の進展があり、サービスの充実・向上という点でグループ一体でシナジーを創出していく必要があります。また、内部統制や連結決算などにより、企業が「グループ」として評価される時代になったということもあげられます。そうしたなかで、ガバナンスやコンプライアンスの面でもグループとして評価を得る必要があります。したがって、CSRについてもグループが一体となって取り組み、全体最適を目指していかなければなりません。そのためにグループ各社が共通して取り組むべき項目を「NTTグループのCSR重点活動項目」と決めました。

NTTグループのCSR重点活動項目

CSRテーマ	CSR重点活動項目
人と社会のコミュニケーション	●ユビキタス社会の実現に向けた取り組みの推進
人と地球のコミュニケーション	●温暖化防止 ●廃棄物削減 ●紙資源削減
安心・安全なコミュニケーション	●情報セキュリティの確保 ●重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
チームNTTのコミュニケーション	●多様性の尊重と機会均等の推進に向けた取り組み ●社会貢献活動

NTTグループのCSR推進体制



Q 取り組み内容についてお聞かせください。

A 最近のトピックスとしては「NTTグループ省エネ性能ガイドライン」を制定し、2010年5月1日より運用開始しました。これはNTTグループ8社^{※1}が地球温暖化防止活動の一環として、使用するルータ・サーバなどのICT装置の開発・調達にあたっての基本的考え方を定めたものです。実はNTTグループが排出する温室効果ガス（CO₂）排出量の90%以上は通信設備やオフィスの電力使用にともなうものです。このような取り組みを明確にするため、NTTグループ8社はICT分野におけるエコロジーガイドライン協議会^{※2}の定める「エコICTマーク」^{※3}を取得しました。

※1 日本電信電話株式会社、東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ、株式会社NTTファシリティーズ、エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社

※2 社団法人電気通信事業者協会、社団法人テレコムサービス協会、社団法人日本インターネットプロバイダー協会、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会、特定非営利活動法人ASP・SaaSインダストリー・コンソーシアムが共同で設立した、「ICT分野におけるエコロジーに関するガイドラインを策定するための協議会」

※3 エコICTマーク：電気通信事業者が適切にCO₂排出削減に取り組んでいることを表示するためのシンボルマークです。



Q 今後の方針、課題についてお聞かせください。

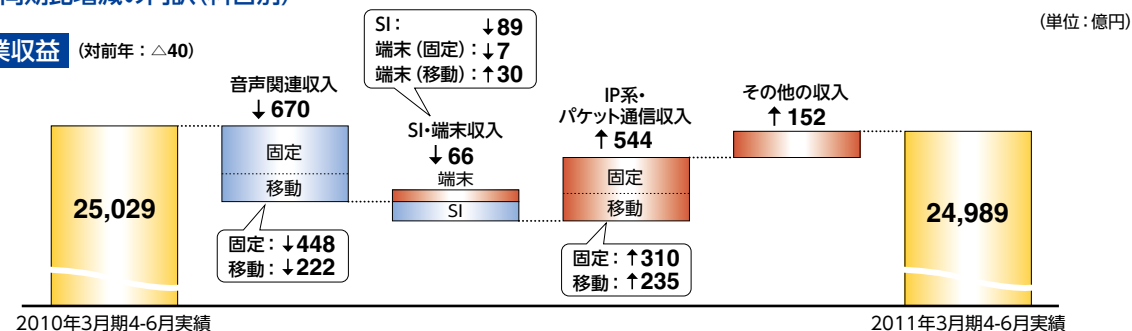
A 基本的には、グループの重点活動項目や目標にそった形で各社が日々の活動を推進していくという方向です。大事なものは、PDCAをきちんと回して、企業も社会も、持続的に発展していくというイメージをもった取り組みであることです。災害対策に関して言うと、ライフラインとして欠かせないインフラを有しており、何かあった場合には社会全体に与える影響が非常に大きい、と認識しています。事業の継続性確保のため、体制の整備に努めています。

第1四半期連結決算の概要

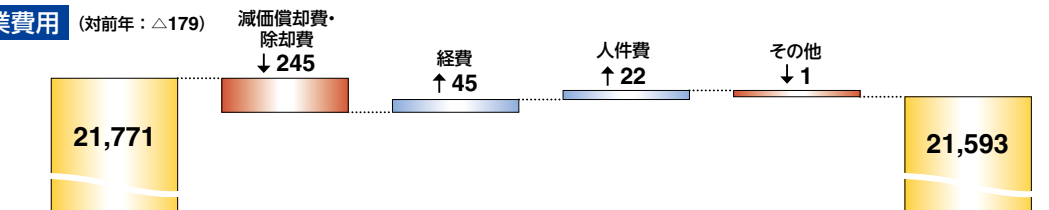
- 営業収益は2兆4,989億円となり、対前年の減少額が前期の907億円から40億円に大きく縮小
「フレッツ光」の拡販や、ドコモのポケットARPUの上昇などにより、IP関連収入が増加したことに加え、携帯電話のバリュープランの浸透ペースが鈍化したことや固定電話契約数の減が小さくなったことにより、音声関連収入の減少幅が縮小したため
- 営業費用は前年同期と比べて179億円 (0.8%) 減少の2兆1,593億円
継続的なコスト削減や投資の効率化により、減価償却費などが減少したため
- 営業利益は前年同期と比べて139億円 (4.3%) 増加の3,397億円

前年同期比増減の内訳 (科目別)

営業収益 (対前年: △40)



営業費用 (対前年: △179)



営業利益 (対前年: +139)



本誌に記載されている予想数値および将来の見通しは、不確定性・不確実性を含んでおり、実際の業績などにつきましては、今後の経済や情報通信業界内外の動向、新たな技術・サービスや料金水準などにより変動することがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありません。

連結および主要な会社別損益状況

NTT連結とは、NTTグループ連結子会社550社、持分法適用会社90社の連結決算を表しています。ここでは、主な5社として、NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ、NTTデータ、NTTドコモを掲載しております。

(単位: 億円)

区 分	NTT連結 ※1 NTT	NTT東日本 ※1 NTT 東日本	NTT西日本 ※1 NTT 西日本	NTT コミュニケーションズ ※1 NTT Communications	NTTデータ ※1 NTT DATA	NTTドコモ ※1 docomo
営業収益	24,989	4,702	4,286	2,521	2,615	10,892
(対前年増減額)	(△40)	(27)	(△71)	(△154)	(△78)	(45)
(対前年増減率)	(△0.2%)	(0.6%)	(△1.6%)	(△5.8%)	(△2.9%)	(0.4%)
(通期業績予想)	(101,600)	(19,200)	(17,410)	(10,350)	(12,000)	(42,220)
(進捗率)	(24.6%)	(24.5%)	(24.6%)	(24.4%)	(21.8%)	(25.8%)
営業費用	21,593	4,464	4,114	2,308	2,486	8,487
(対前年増減額)	(△179)	(△92)	(△183)	(△110)	(△40)	(158)
(対前年増減率)	(△0.8%)	(△2.0%)	(△4.3%)	(△4.6%)	(△1.6%)	(1.9%)
(通期業績予想)	(89,950)	(18,650)	(17,160)	(9,550)	(11,100)	(33,820)
(進捗率)	(24.0%)	(23.9%)	(24.0%)	(24.2%)	(22.4%)	(25.1%)
営業利益	3,397	238	171	213	128	2,405
(対前年増減額)	(139)	(120)	(112)	(△43)	(△37)	(△113)
(対前年増減率)	(4.3%)	(101.2%)	(190.4%)	(△17.0%)	(△22.5%)	(△4.5%)
(通期業績予想)	(11,650)	(550)	(250)	(800)	(900)	(8,400)
(進捗率)	(29.2%)	(43.4%)	(68.7%)	(26.7%)	(14.3%)	(28.6%)
税引前利益	3,416	※2 290	※2 235	※2 272	※2 114	2,406
(対前年増減額)	(157)	(121)	(129)	(△40)	(△36)	(△69)
(対前年増減率)	(4.8%)	(72.0%)	(123.0%)	(△13.1%)	(△24.3%)	(△2.8%)
(通期業績予想)	(11,550)	(750)	(370)	(900)	(870)	(8,430)
(進捗率)	(29.6%)	(38.8%)	(63.5%)	(30.2%)	(13.2%)	(28.5%)
四半期純利益	※3 1,559	180	179	157	58	※4 1,422
(対前年増減額)	(164)	(42)	(88)	(△26)	(△16)	(△52)
(対前年増減率)	(11.7%)	(30.8%)	(96.4%)	(△14.4%)	(△21.5%)	(△3.5%)
(通期業績予想)	(5,000)	(450)	(290)	(520)	(470)	(4,970)
(進捗率)	(31.2%)	(40.1%)	(62.0%)	(30.2%)	(12.4%)	(28.6%)

※1 当社およびNTTドコモは米国基準(連結)、NTT東日本、NTT西日本およびNTTコミュニケーションズは国内基準(単独)、NTTデータは国内基準(連結)に準拠して作成しております。

※2 NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズおよびNTTデータの税引前利益欄には、経常利益を記載しております。

※3 NTT連結の四半期純利益は、当社に帰属する四半期純利益(非支配持分帰属分控除後)を記載しております。

※4 NTTドコモの四半期純利益は、NTTドコモに帰属する四半期純利益(非支配持分帰属分控除後)を記載しております。

NTTグループの動き(第1四半期)

NTTグループの主なニュースをご紹介します。

- 地球温暖化防止活動の一環として、「NTTグループ省エネ性能ガイドライン」を制定、5月1日より運用を開始(NTTグループ8社※)

- パソコン・携帯電話の両方で利用可能な無料のwebメールサービス「ドコモwebメール」の提供を開始(NTTドコモ)

- 中堅・中小企業向けのオフィスICT機器販売、ネットワーク構築および保守サポートにおける包括的協業に合意(NTT東日本)

- 集合住宅オーナー様向け新料金プラン「フレッツ・テレビ建物一括プラン」の提供を開始(NTT西日本)

- 毎日のお弁当づくりを応援するユーザ参加型レシピサイト「お弁当クラブ」の開始(NTTコミュニケーションズ)

- ドイツ子会社itelligenceによる米国RPF Consulting社との資本提携を実施(NTTデータ)

- 宅内外での無線LANを実現する手のひらサイズのモバイルWiFiルータ「光ポータブル」の提供を開始(NTT東日本)

- 「オフィスまるごとサービス」の提供を開始(NTT東日本)／「オフィスネットおまかせサポートサービス」のメニュー追加を発表(9月1日提供開始)(NTT西日本)

4月
April

- 高品質かつ安価なクラウド型仮想ホスティングサービス「Bizホスティング ベーシック」の提供を開始(NTTコミュニケーションズ)

- クラウドサービスの全ラインアップを本格展開、併せて、ブランド名称を「BizCloud」から「BizXaaS」へリニューアル(NTTデータ)

5月
May

- 2010年夏モデルに20機種を開発および一部機種を発売(NTTドコモ)

- 「フレッツ 光ネクスト」に新たな高速タイプをラインアップ(NTT西日本)

- NTTグループやパートナー企業のWebサイトへのシングルサインオンを実現する「NTT IDログインサービス」の提供を開始(NTTコミュニケーションズ／NTTドコモ／NTTレゾナント／NTT)

6月
June

- “3Dとアバターで学ぶ英会話”バーチャル英会話教室サービスの提供を開始(NTTラーニングシステムズ)

- 「Bizホスティング グローバル」の提供エリア拡大および国内外シームレスな一元運用管理・保守体制の提供を発表(7月1日提供開始)(NTTコミュニケーションズ)

NTTの「サービス創造」への取り組み ～クラウドサービス編～

NTTグループの中期経営戦略に掲げている「サービス創造」に関して、その具体的な取り組みの一例をご紹介します。

ある日の夕方。

今後の通信はクラウドだな！

cloud crowd 雲？ 人ごみ？

クラウド？ 何じゃそりゃ？

おまたせー。

おい、クラウドって何じゃ？

おつかれさまー！

クラウド…

クラウドコンピューティングのことかな？

クラウドとは英語で「雲」のこと。ネットワークやその先にある無数のサーバの集まりを指すんだ。この「クラウド」がサービスを提供してくれるんだ。

水道が蛇口をひねるだけで利用できるように、ネットワークに接続すれば色々なサービスが利用できる形態がクラウドなんだ。

フォト メール 動画 音楽

パソコン



ビジネスの多様なニーズに対応するNTTグループのクラウドサービス

なぜ今、クラウドなのでしょう？そこには通信速度の高速化、通信費用の低廉化など「コンピュータ環境の進化」と複数サーバを用途に応じて使い分けることを可能とした「サーバ技術の進化」があります。激変するビジネス環境下で、お客様の「早く、安く、簡単に」というニーズに応えるICTサービスがまさにクラウドサービスです。NTTグループでは、安心・安全なネットワークインフラを基盤に、様々なクラウドサービスを展開しています。今回は特に市場拡大が見込まれる企業向けクラウドサービスを提供する2社の取り組みをご紹介します。

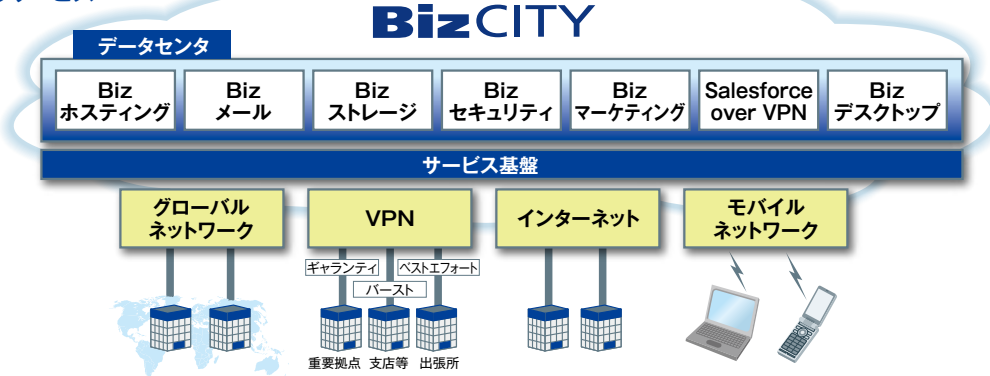
■NTTコミュニケーションズのクラウドサービス

BizCITY

通信事業者としての国内外のネットワークインフラやノウハウを活かして
高品質のクラウドサービスをグローバルに提供します。

NTTコミュニケーションズが提供する「BizCITY (ビズシティ)」は、通信事業者としての独自のネットワーク力を活かし、機密性を保つとともに、広域分散されたデータセンタにより安全で高品質なクラウドサービスを提供します。ネットワークを経由して仮想サーバ機能を提供する「Bizホスティング」やメール機能を提供する「Bizメール」など、クラウドサービス基盤を用いた多様なサービスメニューを揃え、お客様のご要望に応じたサービスを国内のみならず、海外拠点も含めて提供します。

「BizCITY」のサービス



ネットワーク力が
強みです。



■NTTデータのクラウドサービス

BizXaaS

システムインテグレータとしての長年の経験を活かし、
お客様のご要望にワンストップでお応えできるクラウドサービスを提供します。

NTTデータが提供する「BizXaaS (ビズエクサース)」は、これまで培ってきたシステム構築・運用経験とコンサル力を活かし、パブリッククラウドからプライベートクラウドまでトータルに提供する企業向け総合クラウドサービスです。ビジネス環境に特化したクラウドサービスを利用したいというお客様に対しては、個別にクラウド環境を構築する「BizXaaS構築・運用サービス」を提供しています。また、迅速・安価にクラウドサービスを利用したいというお客様に対しては、業務に活用できる汎用メニューを揃えた「BizXaaSプラットフォームサービス」を提供しています。

コンサル力を
活かしています。



「BizXaaS」のサービス

BizXaaS 構築・運用サービス		お客様のビジネス環境に特化した プライベートクラウドの実現を支援します
最適化コンサル	最適化構想の立案、システム実現方式の導出、ベンダ選定をサポート	
マイグレーション	既存システムからのデータ移行、システム移行、業務システムとの連携を実現	
クラウド構築	お客様個別の共通基盤環境を提供	
運用管理	共通の運用管理基盤により、一元的な運用管理サービスを提供	
BizXaaS プラットフォームサービス		迅速・安価にクラウドコンピューティングを 利用したいというご要望にお応えします
アプリケーション	各種フロントオフィス、バックオフィス系アプリケーションをワンストップで提供	
プラットフォーム	アプリケーション開発基盤やミドルウェア、OSを提供	
データセンタ	サーバ、ストレージ、ネットワーク機器など、仮想化環境におけるハードウェアリソースを提供	

NTTグループ会社の紹介

NTTグループ会社の中から、NTTラーニングシステムズを紹介します。

NTTラーニングシステムズ株式会社



通じる英語をロールプレイで学ぶバーチャル英会話教室のサービスがスタート

NTTラーニングシステムズ株式会社は、主にNTTグループ会社および一般企業向けの人材育成をコア事業とし、研修の実施から教材制作、Webソリューション、コンテンツ制作事業へとその業務範囲を拡大し、良質なコンテンツとコミュニケーションをシームレスに提供する会社として発展してまいりました。

今回は、今年7月から提供を開始したネットならではの新しい英会話教室「バーチャル英会話教室」をご紹介します。

効率的で確かに力がつくバーチャル英会話スクール

オンラインとリアルの両方の良さを兼ね備えた学習環境（3Dインターネット）の中で、株式会社アルクの効果・実績のある英語教育メソッドを展開し、英語力を確かに引き上げる英会話教室を目指します。

特長

お手軽

自宅のパソコンが教室に、面倒な通学は不要
好きな場所からインターネットにアクセスして参加できます。

リアル

リアルに負けない臨場感
自分の分身として画面上に登場するキャラクター（アバター）で、臨場感ある多様な場面設定でのロールプレイレッスンが受けられます。

学べる

アルクオリジナル手法によるレッスン
アルクの通信教育をはじめとする語学教育分野で培ったノウハウを元にレッスンをを行います。



レッスンイメージ

URL <http://v-english.jp>

会社概要

社名	エヌ・ティ・ティ ラーニングシステムズ株式会社
本社所在地	〒106-8566 東京都港区南麻布1-6-15
営業開始日	1987年（昭和62年）9月
資本金	22億2千万円
代表取締役社長	古賀 哲夫
主な事業	教育研修の企画・実施および教育支援システムの企画・開発・販売・運営

バーチャル英会話教室カスタマーセンター

メールアドレス：
v-english@azb.nttls.co.jp
電話窓口：0120-566-860
【営業受付時間】
10:00～17:30
（月曜日～金曜日、ただし祝日を除く）

株主インフォメーション

配当金領収証で配当金をお受け取りの株主様へ

配当金はすべてお受け取りいただいていますか。未受領の配当金につきまして、株主の皆様から多く寄せられる質問についてご案内いたします。

Q1 配当金領収証の払渡期間が過ぎてしまいましたが、どうすればいいですか。

A1 配当金領収証のおもて面の「受領印欄」にご押印いただき、うら面の「送金方法指定欄」に送金先などの必要事項をご記入のうえ、中央三井信託銀行証券代行部あてにご郵送ください。後日、ご指定の金融機関口座へ送金させていただきます。

郵送によるお手続きのほか、中央三井信託銀行の本店、全国各支店の窓口（コンサルプラザを除く）でもお受け取りいただけます。

Q2 配当金領収証をなくしてしまいましたが、どうすればいいですか。

A2 配当金領収証を紛失された場合は、中央三井信託銀行証券代行部（NTT株主様専用電話）へお問い合わせください。配当金のお受け取り状況を確認し、未受領である場合は配当金をお受け取りいただける書類をお送りいたします。

Q3 まだ受け取っていない過去の配当金があるか確認できますか。

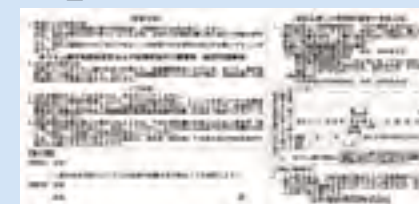
A3 配当金のお受け取り状況につきましては、中央三井信託銀行証券代行部（NTT株主様専用電話）へお問い合わせください。現時点でお受け取りいただける配当金がある場合は、書類をお送りいたします。

<配当金領収証イメージ>

■おもて面



■うら面



【お問い合わせ先】

中央三井信託銀行 証券代行部
NTT株主様専用電話：☎0120-58-4400
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

表紙の絵には「穂」という文字が隠れています。
秋は稲穂がたわわに実る季節です。





株式インフォメーション

◎住所・氏名など届出事項の変更、配当金振込先の指定について

【証券会社の口座に当社株式が記録されている株主様】

お取引先の証券会社へお問い合わせください。

【特別口座に当社株式が記録されている株主様】

当社特別口座管理機関の中央三井信託銀行へお問い合わせください。

◎住所・氏名の表記について

住所および氏名などの文字のうち、証券保管振替機構が指定していない漢字などが含まれている場合には、その全部または一部を証券保管振替機構が指定した文字に置き換えさせていただくことができますのでご了承ください。

◎未払配当金の支払について

まだ受け取られていない配当金がある場合は、お早めに中央三井信託銀行にお問い合わせください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせは

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

NTT株主様専用電話： 0120-58-4400代 表 電 話： 0120-78-2031株主・投資家の皆様向けホームページ <http://www.ntt.co.jp/ir/>

NTT東日本・西日本

「電話サービス」に関するお申し込み・お問い合わせは

(局番なし) **116** (NTT東日本:午前9時～午後9時
NTT西日本:午前9時～午後5時
年中無休 ※年末年始を除く)

「ブロードバンドサービス」に関する
お申し込み・お問い合わせは

0120-116116
(午前9時～午後9時 年中無休 ※年末年始を除く)

NTTコミュニケーションズ

電話・インターネットのサービスに関する
お申し込み・お問い合わせは

コール・コール
0120-506506
(午前9時～午後9時 年中無休 ※年末年始を除く)

NTTドコモ

総合お問い合わせ先／各種ご注文受付
(ドコモ インフォメーションセンター)

ドコモの携帯電話からの場合

(局番なし) **151** (無料)

※一般電話などからはご利用になれません。

一般電話などからの場合

0120-800-000 (午前9時～午後8時 年中無休)
※携帯電話、PHSからもご利用になれます。

日本電信電話株式会社

